

# りそな外為レポート

## りそな WEEKLY COLUMN

### りそな外為レポート

## クリスマスの準備、チキンとプレゼントと為替を予約する一週間 (P2)

チーフカスタマーディーラー  
井口慶一

**今週のドル円予想レンジ 108.50 ~ 110.50**

この度は「J-MONEY」の東京外国為替市場調査にて、皆さまの熱い投票により井口慶一がテクニカル分析部門で第8位となることができました。今後とも皆さまのご期待に応えるよう、より精進してまいります。ありがとうございました。

市場部門一同

### りそなWEEKLY COLUMN

## 新一万円札の顔 (P3)

埼玉りそな銀行 資金証券部  
杉山 尚郁

- 東京ガス、東急電鉄、王子製紙、東洋紡、日産化学、サッポロビール、帝国ホテル、東京証券取引所、みずほ銀行 etc 設立に携わった企業は数知れず。
- 近代日本経済の父とも呼ばれる人物をご紹介します。

2019/12/16

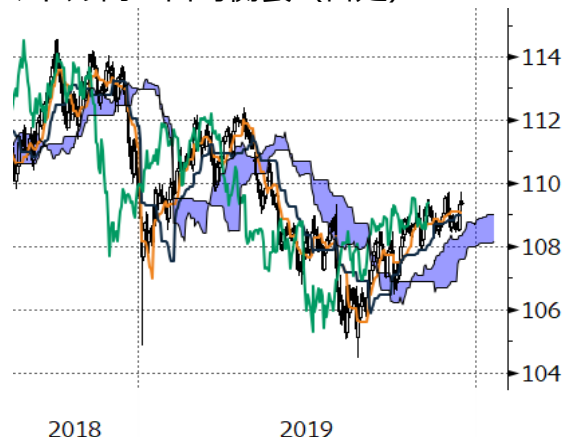
# りそな外為レポート

## クリスマスの準備、チキンとプレゼントと為替を予約する一週間

今週のドル円予想レンジ **108.50 ~ 110.50**

(りそな銀行市場トレーディング室予想 発行当日の10時時点)

### ◆ドル円一目均衡表 (日足)



### ◆為替相場のすすめ

先週は、FOMC・ECB・英総選挙、そして米国による対中関税引き上げ期限と、盆と正月が一緒に来たような過密スケジュールの中、日経平均は年初来高値を、米株は史上最高値を更新した。米長期金利の上昇に連れてドル円も上昇を開始するも一気呵成に110円台回復とはならなかったが、目先のドル円は底堅い展開が続くそう。米小売売上高、日銀短観などの冴えない経済指標やトランプ大統領の弾劾決議案採決など不安材料もあるが、米中貿易戦争の激化懸念や英国の合意なき離脱といったリスク要因が大きく後退したことは非常に大きい。特に年明けまで長引くことを覚悟していた米中交渉「第1段階」の決着は株式市場の参加者に勇気を与えるだろう。マーケットはクリスマスモードに突入するが、さらなる円安進行に備えておきたい。米中交渉は両国政府から正式な発表がなされており、トランプ大統領の秘技「ちゃぶ台返し」は封印され、当面は合意文書の署名や「第2段階」の協議など前向きな報道に反応する場面が想定される。  
(チーフカスタマーディーラー 井口慶一)

### ◆今週の日程

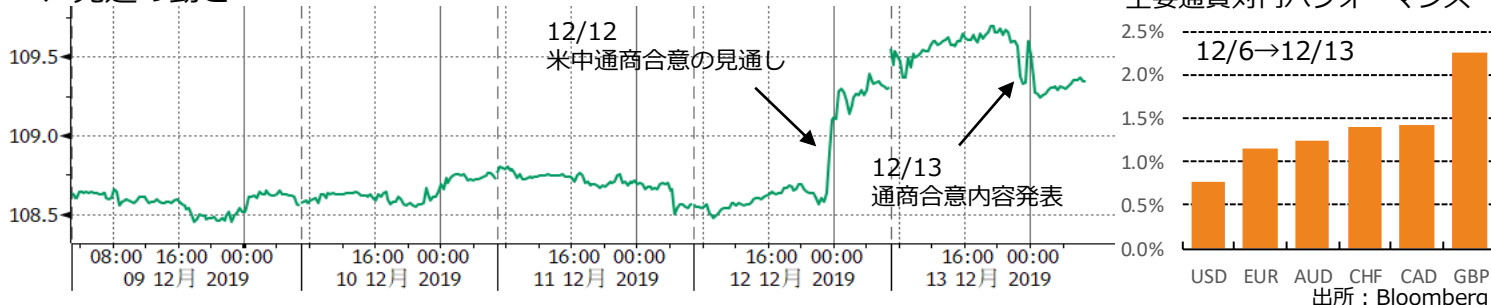
16日 (月) 中	11月生産・小売・投資
16日 (月) 米	12月NY連銀製造業景気指数
17日 (火) 米	11月住宅着工・許可件数
17日 (火) 米	11月鉱工業生産
18日 (水) 日	11月貿易統計

18日 (水) 独	12月IFO景況感指数
19日 (木) 日	日銀金融政策決定会合
19日 (木) 米	12月フィラデルフィア連銀製造業指数
19日 (木) 米	11月中古住宅販売
20日 (金) 日	11月CPI

### ◆今週の予想 (ドル高 強い ↑ 普通 ↑ ドル安 強い ↓ 普通 ↓) NY引け値 12月13日(金) 109.38円 VS 20日(金)

東京							大阪				埼玉					
尾	中	湊	井	鳥	田	高	中	藏	佐	鈴	武	野	小	津	石	伊
股	根		口	井	中	尾	里	重	藤	木	富	瀬	林	田	井	藤
↓	↓	↑	↑	↓	休	↑	↓	↑	↓	↓	↓	↓	↑	↑	↑	↓

### ◆先週の動き



◎注意事項  
お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願いいたします。

2019/12/16

# りそな WEEKLY COLUMN

## 新一万円札の顔

- 東京ガス、東急電鉄、王子製紙、東洋紡、日産化学、サッポロビール、帝国ホテル、東京証券取引所、みずほ銀行 etc 設立に携わった企業は数知れず。
- 近代日本経済の父とも呼ばれる人物をご紹介します。

埼玉りそな銀行 資金証券部  
杉山 尚郁

日本のお札が20年ぶりに刷新されるというニュースがありましたよね。みなさんは新しいお札の顔が誰になるか覚えていますか。答えは一万円札に渋沢栄一、五千円札に津田梅子、千円札に北里柴三郎です。意外と忘れていた方も多いのではないのでしょうか。実際にお札が刷新されるのは2024年の上期だそうで、ずいぶんと先の話です。今回のコラムでは福沢諭吉に変わって一万円札の顔を務める渋沢栄一についてお伝えします。渋沢栄一について、第一国立銀行を設立した人として日本史で学んだことはあるけれど、それ以外についてはあまり知らない、そういう方がきっと多いのではないのでしょうか。我々銀行員の大先輩である渋沢栄一をご紹介します。



新一万円券イメージ  
(財務省)

渋沢栄一は江戸時代末期、現在で言う埼玉県深谷市で、豪農の家に生まれます。渋沢の家は野菜などの生産を行う一方で、染料の元となる藍玉の生産販売を行っていました。当時の藍は非常に需要があり、農民でありながら渋沢は裕福な家庭に育ちます。渋沢は7歳のころにはいとこの尾高惇忠のもとで論語を学びます。これがのちの経営哲学の軸の一つになっていきます。

渋沢が17歳のとき代官から呼び出しがあり、父親の代わりに渋沢が行くことになりました。そこで渋沢は御用金五百両を代官から求められます。御用金とは財政不足を補うために町人に課した臨時の上納金のことで、建前としては借入金でしたが、踏み倒しが当たり前になっていました。渋沢は代官の要求に応えず、「父の代理で来ているので、改めて渡す。」と伝え、頑なに御用金を渡しませんでした。お金を工面してもらおう立場の人間がなぜこんなにも偉ぶるのか、武士がそんなに偉いのか、このときから渋沢は幕府のあり方に疑問を持ちます。

※藍玉とは？

藍の葉を発酵・熟成させた染料の元を運搬しやすくするためにつき固めて固形化したもの。



(深谷市HP)

尾高惇忠

渋沢栄一の従兄弟。渋沢に論語を教えた人物。渋沢はのちに惇忠の妹・千代と結婚する。渋沢との縁で富岡製糸場の初代場長を務めた。

2019/12/16

# りそな WEEKLY COLUMN

21歳のころ、尊皇攘夷思想の影響を受けた渋沢は高崎城乗っ取り計画や、横浜の外国人居留地を焼き討ちにする計画を企てます。親族の反対もあって計画が未遂に終わった渋沢は志士活動が行き詰まり始めます。ここで渋沢に転機が訪れます。江戸で知り合った一橋家の用人から商才を認められ、今度は一橋慶喜（後の15代将軍徳川慶喜）の家臣としてスカウトされました。攘夷志士だった人間が幕臣になるなんて面白いですね。幕府では年貢米の販売方法の変更などの経営革新で実績を上げました。

慶喜の弟、昭武がパリ万博に行くことになり、渋沢はこの付き人の一人としてフランスに渡ります。これがさらなる転機となります。渋沢はヨーロッパ各地を訪問し、先進的な産業・軍備の見聞を広げます。当時の日本では土農工商のもと商人は金銭を扱う卑しい仕事と軽んじられていましたが、ヨーロッパでは商人と役人が対等な関係で取引していました。渋沢はその姿にいたく感動し、これこそが真の平等だと確信します。

大政奉還に伴い新政府から帰国が命じられた渋沢は帰国後、大蔵省の官僚になります。官僚として国立銀行条例の制定などに携わりますが、渋沢は自身の活躍の場を政治の世界ではなく、ビジネスの世界に求めました。渋沢は35歳で第一国立銀行の頭取となり、ヨーロッパで学んだ株式会社のシステムを日本にもたらしめます。第一国立銀行の後継である第一銀行を含めると約40年もの間、頭取を務めました。渋沢が設立に携わった会社の数は500社以上と言われており、みずほ銀行、東京ガス、帝国ホテルなど現在まで伝わる大企業も元を辿れば、渋沢に行き着きます。

「他人を押し倒してひとり利益を獲得するのと、他人をも利して、ともにその利益を獲得するといずれを優れるとするや」（『渋沢栄一訓言集』）  
儲けを独占していれば、恨まれ敵を作り長続きしない。皆で儲け、皆で豊かな社会を作ることこそが大切であると渋沢は信じていました。当時の財閥は親族や身内の人間で株式を保有することで経営を支配し、利益を独占する閉鎖的なものでしたが、渋沢財閥は他の財閥と異なり開放的な経営に努めていました。信頼できる人間をトップに据え、経営自体にはあまり関与せず、株式保有率もかなり低かったそうです。終戦後の話にはなりますが、GHQにより財閥解体が行われる際、渋沢財閥は一度は財閥として指定されますが、その後の再調査で規模と株式所有企業への支配力の点から財閥には相当しないと認定され指定解除を申し出るように通知を受けます。解体を免れることもできた渋沢



(富岡市観光HP)

設立に携わった富岡製糸場

2019/12/16

# りそな WEEKLY COLUMN

財閥ですが、渋沢栄一の孫であり当時の渋沢家当主渋沢敬三は「世間が認めないだろう」と言い、結局解体を受け入れることになったそうです。

渋沢は公益の追求者であり、社会に必要な鉄道やガス、紙など人々の生活に必要なインフラに注力していました。また、営利だけでなく社会福祉にも尽力しており、日本赤十字や一橋大学の設立など医療や教育にも貢献しています。公益を追求する『道徳』と利益を追求する『経済』を両立させる『道徳経済合一説』こそ渋沢が重んじたもので、そのルーツは、幼い頃から学んだ『論語』と商いの経験からきており、大人になった渋沢はその「論語」と「算盤」を体現させました。

最近では企業の社会的責任（CSR）が重要視され、永く地域社会とともに発展することを目指す企業が増えてきました。渋沢栄一は近代日本経済の父と評されますが、その考え方は現代になってようやく時代が追いついたということではないでしょうか。

渋沢が設立に携わった企業に黒須銀行という銀行があります。黒須銀行は庶民の積立金を基に発足した銀行で、道徳をよく重んじ地域社会の発展に尽くしました。『道徳経済合一説』を唱えていた渋沢は、黒須銀行のあり方に感動し、「道徳銀行」と自らの筆で書いた額を贈っています。黒須銀行をルーツの一つにもつ私たち埼玉りそな銀行本社には、この「道徳銀行」の額が今もなお飾られています。



農家から幕末の攘夷志士、官僚を経て、実業家という人生を歩み、さまざまな功績を日本に残した渋沢ですが、なんと2021年のNHK大河ドラマ「青天を衝け」で主人公となることが決定しました。イケメン俳優の吉沢亮さんがその役を務めます。このコラムではお伝えしきれなかった渋沢栄一のすばらしさがきっと描かれることと思います。興味のある方はご覧になってみてはいかがでしょうか。